



## NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788  
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920  
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

## NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN  
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920  
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

平和を祈り求める  
－日本キリスト教協議会アピール－

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。  
彼らは劔を打ち直して鋤とし槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かって劔を上げずもはや戦うことを学ばない。  
(イザヤ書 2 章 4 節 <新共同訳>)

私たちが信じ従う救い主イエス・キリストは、十字架の死から三日目によみがえられました。悲しみと恐れに捕らわれ、部屋に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちにご自身の体を顕された時、最初に語りかけられた言葉は「あなたがたに平和があるように」でした。主イエスは「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」と教えられました。この主の福音に励まされ、聞き従い、教会から遣わされ、この世において主による平和を求め働くことを命じられている群れが、私たち日本キリスト教協議会(以下NCC)です。キリストを信じる教派と団体が「平和の福音」でエキュメニカルに結ばれ、これまで協働してまいりました。

夏を迎えるにあたり、改めて先の戦争がアジア諸国に対し、慰安婦問題を含め植民地支配による計り知れない被害をもたらしたことを覚え、神の前に深くその罪責を告白し悔います。国としての十分な謝罪がなされますよう祈って参りましょう。

1945年8月には、人類史上初の核兵器爆弾が広島と長崎市民の上に落とされました。癒しがたい傷跡を抱きながら「核兵器廃絶」の声を被爆国として私たちは挙げ続けてきました。2011年3月には、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンが起り、広大な地域が放射能によって汚染されました。多くの人々が住まいと故郷を失い、今もなお避難生活を強いられ、子どもたちの健康に影響が及んでいることを私たちは知っています。命や環境に取り返しのできない傷を残す「被爆」という経験をもつ日本の原子力行政の在り方を今、私たちは真剣に問い直さねばなりません。「二度と核戦争への道を進んではならない」という祈りを抱き、日本国憲法第九条の「永久戦争放棄、戦力の不保持、交戦権の否認」の精神を堅持して参りましょう。日米安保条約のもとに、沖縄が在日米軍基地の70%以上を強いられる現実を許しています。私たちはそれをも直視し、米軍基地のない沖縄が実現するようにと連帯の祈りをささげましょう。

ぶつかり合うイデオロギーは、軍拡競争と核兵器・弾道ミサイル開発という形で世界を不安に陥れました。一度核のボタンが押されれば防御不能とならざるを得ないところにまで世界は直面しています。他国を敵視しその脅威を国民にアナウンスすることによって恐怖心や敵意を煽りながら軍備増強の道を推し進めることは、もはやいかなる国であっても真実の防衛にはなり得ません。私たちはそのことを直視して行かねばなりません。本年6月12日にシンガポールにて米朝首脳会談が開催され、武力に依らず、朝鮮半島の南北統一に向かう平和外交の道が明確に示されました。私たちNCCは、この平和外交への道が不可逆なものとなることを、世界の教会と連帯し心から祈ってまいります。NCC加盟教団・団体と平和を作り出す奉仕を分かち合い、現行憲法第九条と立憲民主主義が最後まで守られるように願う次第です。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」と教えられた主イエスは、戦争を起こす人間の心の中の主の平和を与えてくださいます。主の豊かな恵みと十字架上の執り成しの業に感謝しつつ歩んでまいりましょう。

2018年8月15日

日本キリスト教協議会  
議長 渡部 信  
総幹事 金 性済